

令和5年度 多摩市立東寺方小学校 学校評価書

学校教育目標	
人権尊重の精神に基づき、知性・感性・道徳心や体力を育み調和のとれた豊かな人間性と自主的精神に満ちた子どもの育成を目指し以下の目標を設定する。 ○たくましい子 ○おもいやる子 ○かんがえる子	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
地域から信頼される子どもたちの夢が広がる学校 ～笑顔のあふれる学校～	
目指す子供像	目指す教師像
<ul style="list-style-type: none"> ・心も身体もきたえ、明るくたくましい児童 ・自分も人も大切にしたい思いやりのある児童 ・粘り強く考え、主体的に学ぶ児童 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめをしない、させない指導を徹底する教師 ・児童理解に努め、率先して授業改善を図る教師 ・チームとして協働し、切磋琢磨し高め合う教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習規律(寺小スタンダード)を基本にどの子もわかる楽しい授業を作る。 ・ESDの視点を踏まえた学びの推進、主体的に粘り強く取り組み課題を追究する力を育てる。 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
SDGsをふまえたESDを推進し、教員が各教科との関連性を考えた授業を80%展開する。	3	総合学習を中心に、SDGsの17項目を意識させた。各教科との関連では80%の展開に至らない学年もあった。ESDカレンダーをもとにしっかりと意識していく。	A	・学年によりさまざまだが、ESDの推進はひのきの森や自然環境に恵まれた地域の特性をこれからも生かすと良い。
基礎基本を定着させるために各学年の学期末漢字・計算テストの9割の回答率を100%達成する。	4	何度も取り組ませ努力させた結果ほとんどのクラスで9割の回答率が100%達成できた。基礎学力の定着には繰り返し取り組むことを徹底させていく。	A	・繰り返しの教育の取り組みは基礎学力の向上につながる。高く評価したい。
1人1台のタブレットの活用を通して学習指導力の向上を図り、授業が楽しい、よくわかるとする児童を90%以上とする。	3	学年に応じたタブレットの活用により授業が楽しいとする児童は97.5%。教員評価も活用が図れたと評価は高い。今後も効果的なタブレット端末の活用を図る。	B	・タブレットの活用は申し分なく達成したと評価してよい。タブレットの活用で効果的な授業になる工夫がされている。一方、書く楽しさも持ち続けてほしい。
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsの視点を踏まえた授業の展開は、今後も本校独自の取り組みを核に実践していく。 ・基礎学力を身に付けるための繰り返しの指導は、教員自身が手ごたえを感じている。今後も個別指導を充実させ達成率を上げたい。 ・タブレットを有効活用し、授業に意欲的な児童が増えたと実感する。児童の理解度を確認することにも役立った。今後、オンラインでの学習ができる技能を身に付けさせていく。 			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめを許さない、困難に負けない心を育て、いじめ・不登校を防止する。 ・考え議論する道徳授業の充実を図り、正しい判断と行動を実践する児童を育成する。 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
自他ともに大切にし、友達と仲良く学校生活を送れる児童を90%にする。	3	友達を大切にしたいという児童評価が92.5%。友達も自分も大切にし、自己肯定感が高い子供の育成を心掛ける。また、登校し辛い子供への対応を工夫する。	A	・数値のみで評価することは難しいが共に学び合い話し合い遊ぶ土壌作りの強化を望む。
明るい挨拶ができ、笑顔で生活できる児童を90%以上にする。	3	明るい挨拶ができる児童が91.9%、笑顔で学校生活を送れるとする児童が93.1%。今後も自分から挨拶をすることを指導していく。	A	・知っている人には自分から積極的に笑顔で挨拶できる土壌作りが大切で家庭や地域でも実践していく。
いじめを許さない、いじめを生まないことを基本に、いじめのない学校づくりを95%以上推進する。	3	いじめたりにじめられたりしないとする児童評価は92.5%。保護者評価も92%。今後も道徳授業の充実を図り、人を大切にする心の育成を図っていく。	A	・いじめに関しては常日頃の児童観察と保護者との連携が大切である。また、当てはまらないとした児童の存在が気になる。
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・穏やかに過ごせる児童が多いが、今後不登校児童への支援をしっかり行っていきたい。 ・明るい笑顔の挨拶がいつでもどこでもできるよう、教員がまず積極的に行い指導を継続する。 ・いじめに関してはさらなる道徳の授業力向上を図りいじめのない学校作りを推進。 			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体をきたえ、心身ともにたくましい子どもを育成する体育・健康教育の推進を図る。 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
基礎体力の向上を図り、自ら進んで健康の増進と体力向上に努める子を養い、休み時間の外遊びをよくする子を85%とする。	3	よく外で遊んだ児童評価は80.8%。なわとびやマラソンの取り組みの児童評価は91.2%。保護者評価は77.1%。休み時間にみんなで遊ぶ楽しさを味わわせた。	A	・外で遊ばない子供は何をして過ごしているか気になる。無理強いではできないが縄跳びマラソン以外の遊びの工夫をするとよい。
健康や安全に関する意識を高め安全指導・健全育成に関する保護者アンケートを90%とする。	3	保護者評価90.7%。毎月の安全指導・避難訓練等計画立てて実施できた。今後防災教育の充実を図る。	A	・日頃の訓練が必要である。防災教育のみならず交通安全教育の強化も重要である。
オリパラ教育「2020レガシー」の継承・指導の充実と計画的な取組を実施し児童の満足度を90%以上とする。	2	オリパラ教育の継承による障がい理解教育や環境保全の活動と実践はあまり進んでいない教員評価が多い。今後児童の満足度が図れる取り組みをしていく。	A	・オリパラ教育による児童の満足度とは障がい者理解がスポーツを通じた努力と向上心の育成が分かりにくい。
評価のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス遊びやたてわり班遊び、休み時間等で体を動かす時間を可能な限り確保する。 ・具体的な体力向上策を設定し運動を楽しみながら行わせると共に、交通安全については引き続き重きを置いて啓発を続ける。 ・障がい理解授業や体験活動を計画的に実施し、取り組みの様子を積極的に周知していく。 			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	・信頼される学校をめざし、HPや学校便り等で教育活動を積極的に情報発信する。 ・地域に根ざした学校としての価値を高め地域に開かれ地域と共にある学校づくりを進める。		
評価項目	自己評価		学校関係者評価
	評語	現状の分析と改善策	評語 学校運営協議会委員の意見
わが子が、笑顔で学校生活を送れていると満足する保護者を90%以上とする。	3	笑顔にあふれ楽しんで学校に通っている保護者評価は91.3%。今後もHPや学校便りで情報発信していく。特別活動を充実させ、保護者との連携を密にして落ち着いて子供たちが生活できるように支援していく。	A ・ブログ発信で子供の様子が分かる。子供の笑顔の学校生活は保護者との意思疎通の証。今後も情報交流の充実が必要である。
「コミュニティ・スクール」として「地域に開かれた、地域と共にある学校作り」推進を90%とする。	4	地域の教材を取り入れたり外部講師を招いたり積極的な学習を行っているかとの保護者評価は89.7%であるが、教員評価は高かった。これからも学運協委員と共に学校作りを行い地域の人材を活用した学習活動を展開していく。	A ・地域コミュニティを意識した取り組みを行っており、地域との関係性は良好である。学運協も大いに協力していきたい。
地域連携コーディネーターを中心に、保護者や地域人材と協働した教育活動を展開し学習支援を90%推進していく。	4	地域コーディネーターが中心となり地域の外部人材と細やかに連携を取ることができた。今後も地域の人材や施設等を活用した協働的・探究的な学習を展開していく。	A ・地域に開かれた学校作りには、地域の人材をさらに活用していくことが大事である。寺小の伝統文化を大事にしてほしい。
評価のまとめ	・教育活動の地域・家庭への情報発信はよい効果をもたらしている。今後も特別活動の充実を図っていく。 ・学校運営協議会で学校の取り組みを毎回プレゼンし、好評を得た。今後も継続し、情報交換していく。 ・昔遊びや朝読み等も含め、保護者や地域人材を生かした活動を計画・実施できた。さらなる充実を目指す。		

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<令和6年度の方向性について> 1. コミュニティ・スクールとしての学校運営協議会の周知徹底と学校運協議会のメンバーの拡大を目指す。地域人材の有効的な活用を展開する。 2. たくましい児童の育成実現のために、特別活動、たてわり班等を充実させ、学年の縦の繋がりを強固にする取り組みを実施する。 3. 確かな学力の育成のためにタブレットの効果的な活用を推進する。教師は、校内研究を軸に授業改善に努め授業力向上を目指す。 4. 家庭はなまる習慣、寺小スタンダードの推進、学校ホームページの充実を推進する。 <課題について> 1. 学校の特色を大事にし、学校と地域への誇りをもたせ、子供たちが自信をもって生きていけるようにしていく。 2. 笑顔で積極的に挨拶を交わすことで、あたたかい心と思いやりの心を育て強い心やたくましさを育てていく。 3. たてわり班活動を通して、自信をもって人のために行動できるたくましさを身に付けさせていく。 4. 一人も取り残さない教育の実現に向け、不登校等の諸課題に対する組織的な対応の充実を図っていく。 5. 地域に貢献する実践と、自己有用感を実現させるための活動を意図的に取り入れていくこと。

以上のとおり報告いたします。

令和6年3月20日

多摩市立東寺方小学校 校長 伊藤 智子



令和5年度 学校評価書



多摩市立東寺方小学校